

生命を育み知恵をつなぐあいち文化のまちづくり

グループ名：オーガニックなまちづくり

メンバー：竹内 美登, 中井 誠, 神谷 俊廣, 寅丸 武司

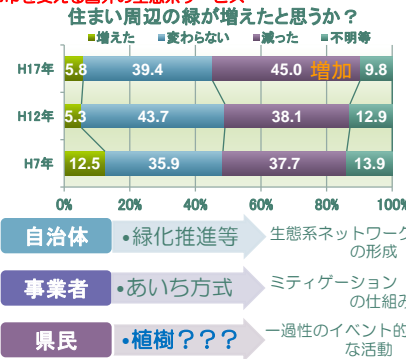
チューター：隈部 和弘, 堀井 俊宏, 後藤 時政



現状の把握

愛知県：人口集中地区人口比76.8% (全国6位：2010年)

自然とのふれあいの場の損失、人的つながりの希薄化→伝統文化の衰退、都市を支える国外の生態系サービス



県民が当事者意識を持って継続できる仕組みが必要

2030年に向けての提言の概要

- 人々が体験を通じて生物多様性・生態系サービスの理解
- 地域コミュニティが自然共生まちづくりで活性化
- あいちの伝統文化・資源の継承、発展

いのち 生命をつなぎ文化を伝え進化するまち			
生物多様性の体感	伝統種の保存	知恵の伝承 文化の発展	地域のつながり
愛知目標1 人々が価値と行動を認識する	愛知目標13 作物・家畜の遺伝子の維持	愛知目標18 伝統的知識が尊重され、主流化される	CBO 多様なステークホルダーの関与による管理

県民が生物多様性と文化とのつながりを体験できる仕組みの構築

提案の内容

- 都市化は、生態系サービスを維持する挑戦であり機会
- 都市で豊かな自然との共生は可能

CBD 都市と生物多様性アウトLOOK (2012年)

『生命のゆりかご』の定義

- 人と生きものの命を育み
- 人だけでなく生きもの目標
- 地域の風土に合った
- 持続可能な
- 手節を感じ、自然と触れ合える空間

- 主体：県民個人、コミュニティ、愛知県、市町村のサポートで活動推進
- 場所：庭やプランターからスタート
- 行動：『生命のゆりかご』づくり

一般県民を対象とする工夫

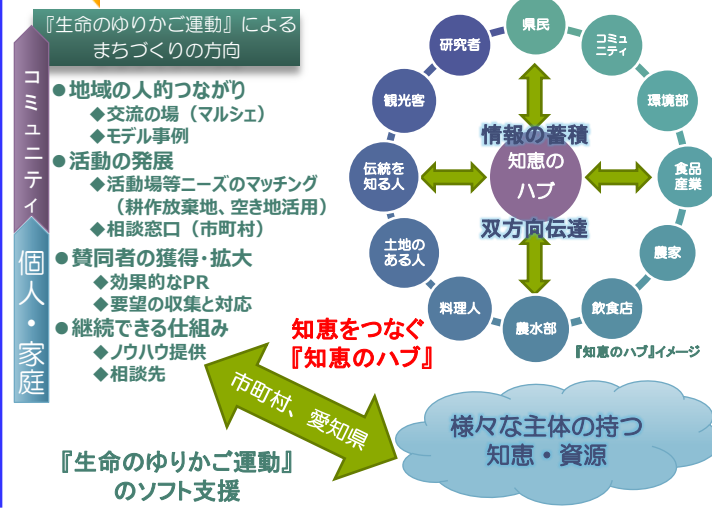
一般の関心の高い食、健康分野、珍しいプレミア感、取り組みの効果が明白、収穫物で交流可能

伝統野菜・食品の持つ効能(身土不二)を最大限に活用
先人の知恵、文化を伝える大切さと新しい愛知の文化の創出



あいちの伝統野菜を通じた『生命のゆりかご運動』を提言

提案実現のための具体的な取り組み (アクションプラン) と実現可能性



波及効果

- 国外の生態系サービスへの依存率低下
- 地域に誇りや愛着 (トポフィア) の醸成
- 個人から地域活動へ発展
 - ◆ 未活用土地の利用 (耕作放棄地、空き家)
 - ◆ 観光資源の発展 (観光食：愛知の和食、伝統野菜B1)
 - ◆ 県民窓口は市町村へ
 - ◆ 伝統的地域産業の活性化 (発酵食品等)
- 都市の緑地増加・生物多様性の確保 (発酵食品等)
 - ◆ 身近な自然、大気浄化、レクリエーション、健康、防災等
- 地域マルシェによる地域商店街の活性化
- 2020年愛知目標の達成
 - ◆ 目標1：人々が価値と行動を認識する
 - ◆ 目標13：作物・家畜の遺伝子の維持
 - ◆ 目標18：伝統的知識が尊重され、主流化される
- 都市と生物多様性のショーケースとして世界発信
- 生物多様性の体感による理解No.1の県へ

例：金樓まぐわうり、家庭菜園ブーム、知恵のハブの整備、『生命のゆりかご運動』Start! (愛知県主導)

例：野崎2号白菜、御器所大根 (漬物工場)、あいちトリエンナーレとあいちの伝統からのインスピレーション

2014年

2020年

2030年